



認定 NPO 法人底上げ 年間活動報告書

2016 年度



contents

- 03 理事長挨拶
- 04 フィロソフィー
- 05 スタッフ紹介
- 06-07 高校生サポート
- 08 フリースペース
- 09 学習コミュニティ支援
- 10-11 底上げ Drinks
- 12-13 SOKOAGE CAMP
- 14 農業部
- 15 底上げ Youth COM OBOG
- 16-17 対談
- 18 NEWS
- 19 1年こんなこともありました
- 20 収支報告
- 21 助成・寄付団体 / メディア
- 22-23 認定 NPO 法人底上げについて



本年も無事に年間活動報告書が完成いたしました。
まずはこの場をお借りしてお世話になった皆様に感謝いたします。
本年もご指導ご鞭撻頂きありがとうございました。

震災から6年という歳月が流れ東北も大きく変化しました。2012年に立ち上がった当団体も5年を迎えます。

思い起こすと震災直後は支援物資配布やボランティアといった緊急支援を実施し、その後、根本的な復興を目指すには人材育成が重要だと思い活動を変化させていきました。

言い換えるならば、仮説と検証を繰り返してきた5年間でした。その成果を挙げるとすれば二つ挙げられます。

ひとつは、高校時代に当プログラムに参加した大学生が「地域おこし協力隊」として気仙沼にもどり、活動をスタートしたこと。

ふたつめは、本年より気仙沼市より受託をうけ、「気仙沼まち大学」構想の運営事務局に参画し、人材育成を多面的に行えるようになったこと。

一方で、まだまだやれることは多くあります。

志津川高校、全校生徒を対象に実施したアンケートによると69パーセントが南三陸の復興に関わりたいと回答したにもかかわらず、自分が復興にいい影響を与えるかという質問に対し、そう思うと答えた生徒はわずか32パーセントでした。このことは、何かやりたいのだけど自分には実力がないという意識の現れだと思っています。

自分にもできることがある！と一人でも思える環境を作るべく、引き続き仮説と検証を繰り返し活動を行っていきたいと思っている次第です。

認定 NPO 法人底上げ 理事長 矢部寛明



SOKOAGE Philosophy

できる**感覚**を、
 うごく**楽しみ**を、
 生きる**喜び**を
全ての若者に



スタッフ紹介

野田篤秀 Atsuhide Noda

関東学院大学在学中に震災が発生。小学校の教員になるために初等教育を専攻するも、教員になる前にもっと社会勉強が必要だと感じ2014年より正式にスタッフとして底上げに参画。南三陸町で子どもへの内面からのアプローチによる主体的な学びを研究中。座右の銘は「つよく、しなやかに」

江川沙織 Saori Egawa

宮城県仙台市出身、横浜市立大学卒業後銀行勤務を経てUターン直前に震災が発生。仙台のコミュニティ財団にて助成事業に関わった後2016年より底上げに参画。「大事なものは目に見えない」「在り方が経験を生む」を大切に、たまに一人旅に出たくなる一人っ子。



矢部寛明 Hiroaki Yabe

23歳早稲田大学入学27歳卒業。5年遅れのアウトロー。生き急いだ先に幸せは待っていないと気づいた20代。震災後外資系企業の職を辞して気仙沼入り。本質的な復興は人材育成にあるという仮説のもと高校生に対し人材育成プログラムを実施。今この瞬間の積み重ねが未来なら、この瞬間を本気で生きていきたい。座右の銘は「行動はメッセージ」。今日も鼻の頭に汗をかきながら大声出して活動中。

斉藤祐輔 Yusuke Saito

中央大学卒業後、旅行会社勤務を経てオーストラリアに留学。帰国後、東日本大震災があり、気仙沼市にて活動を開始。趣味は旅と対話。底上げ立ち上げの後も1年半海外を旅して周る。本当の豊かさとは何かを追求しながら生きることを目指す。座右の銘は「過去と他人は変えられない」

成宮崇史 Takafumi Narumiya

立教大学卒業後、児童養護施設で勤務。その後カフェやバーの仕事を経て、震災後、気仙沼市へとボランティアとして入りそのまま移住する。直接現場で高校生のため、町の活性化のため日々全力で走り続けている。座右の銘は「猪突猛進」

高校生サポート in 気仙沼

参加人数 **22人** (内8名卒業)



Hinata Kumagai
熊谷ひなた
気仙沼高校2年

わたしは2016年の9月頃から底上げYouthに参加しています。「これが良い」「これやりたいね」活動の中でそういう会話をしているうちに以前より自分のやりたいことを言えるようになりました。たくさんの方々に感謝です！今、わたしにはやりたいことがたくさんあります。それを実現できるようにがんばります！



canonの方を講師に招きカメラ講座。気仙沼の景色を撮影



仲間と共に主体性をもって作り出すまちづくり

高校生が自分たちの町のためにできることをひたすら考え、行動していく。その中で最も大切なのは自分が本当にそれをやりたいかどうか。常に高校生の自主性と主体性を尊重し、自分の思いを表現できる場を作り、多様性に富んだ時間を共に近い距離で走る伴走者として高校生が自ら考え、動く力を支えています。気仙沼では底上げYouthが、南三陸ではCOMが高校生団体として活動しています。



東北沿岸の高校生が集まりワークショップを行う高校生交流会を実施



in 南三陸



Riki Sato
佐藤利輝

志津川高校自然科学部2年

自然科学部の活動をサポートしてもらい、いろいろな経験をすることができました。特に印象に残っているのは、ホームページの制作です。何かを作ることはすごく大変で、悩んだり、失敗したりもしました。これまで失敗したのは初めてではありませんでしたが、この失敗はまたやってみたい失敗、ためになる失敗と思っています。最後には失敗を自分で修正し、いいものができました。これらの活動を通して、人との関わり方を知ることができました。自分一人ではできなかったことにチャレンジさせてもらって本当に良かったです。

南三陸グルグル計画
<http://www.guruguru-bio.com/>



参加人数 **7人** {COM 5名
自然科学部 2名}

自然科学部
サポート日数 **41日**



自然科学部の高校生が、制作したパンフレットを紹介



地元向け活動報告会を実施。底上げから事業説明と高校生から活動を通して得たものを発表

フリースペース



Aoi Sugawara
菅原碧
気仙沼高校 2年

放課後に時間のある時に、誰かと話したい時に。自分の好きなタイミングで立ち寄れるのがアゲドコロ（気仙沼放課後フリースペース）です。他クラスや他学年のひとたちとも交流ができたり、大人の方々とも交流する機会があってとても楽しいです。これからアゲドコロを中心に日々の中で感じたことの共有や勉強の教え合いなどもしていきたいです。

延べ参加人数 **382人** 週2回



代表矢部がゼミを開講

何かを踏み出す土台になる子どもたちの安心安全の場

フリースペースは、週2回気仙沼と南三陸で、平日の放課後に高校の近くにあるコミュニティスペースで高校生が自由に集まれる場です。集まった高校生と、勉強をしたり、学校・家庭生活のことなどを話しています。なんでも話せる環境を整え、子どもたちと関わっていくことで彼らと信頼関係を構築しています。



学習コミュニティ広場

延べ参加人数 **412人** 週2回



Yumiko Onodera
小野寺由美子
学習支援参加者保護者

震災から六年の月日が経ち仮設店舗や仮設住宅は閉鎖の時期を迎えました。当時、息子の通う中学校は体育館が避難所となり校庭には仮設住宅が建ち不自由な生活が続きました。そんな中、鹿折地区で《底上げ》の皆さんが学習会支援を始め、若者と子供達との交流する素晴らしい居場所ができました！あの不安定な時期にたくさんの元気と笑顔を与えていただき貴重な体験となりました。底上げの皆さん！本当にありがとうございました！



Ryoma Kokuta
穀田竜馬
関東学院大学 1年

東日本大震災がおき、私たちは勉強するスペースがありませんでした。興味半分で最初は通っていましたが、勉強だけではなく進路や人生相談など真剣に一緒に考えていただきました。そこで底上げと出会ったことは自分にとって大きな成長の機会になりました。サライ（鹿折地区学習スペース名称）はなくなっても気仙沼に底上げさんがいる事で、私の地元であるこの気仙沼はいい方向に向かっていくと思います。本当に感謝しかありません。ありがとうございました。



みんなで集まることのできる放課後の自分たちの居場所

仮設住宅の集会所を借りて小中高生が放課後に集まり、スタッフが一緒に遊んだり勉強をしています。ボランティアとして参加する大学生も、子どもたちの身近な存在として、進路相談を受けるなど良い関わりを作ることができています。安心できる基地のような場所として、子どもにとって貴重な時間を作っています。なお、仮設住宅が集約化されている現地の状況に合わせ、2016年3月をもって学習コミュニティ広場事業は終了いたしました。



仮設住宅集会所にて定期テスト前の特別勉強週間を設置

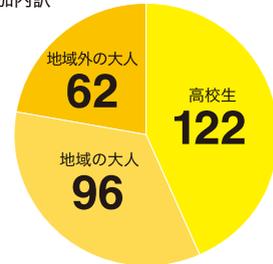


底上げ Drinks in 気仙沼

年間実施回数 **12回**

延べ参加人数 **280人**

参加内訳



Ryuto Kudo

工藤龍人

気仙沼高校 2年

「気仙沼にはこんな大人がいるんだ!」「気仙沼でこーゆうことをしたい!」と思った時の相談室みたいな場所です。僕が気仙沼について考えるようになったきっかけも底上げ Drinks でした。市役所の人に気仙沼事情を聞いたり、会社の社長さんと話し合ったりと、とても有意義な時間を過ごしています。興味本位でも絶対に無駄な時間にはならないので、オススメです! ご飯も美味しいです!! 「Let's join !!」



多様な人との関わりでつくるコミュニティ

底上げ Drinks は月 1 回、町内の高校生と大人を中心とし、食事をしながら交流する場です。高校生と地域の大人が関われる機会が少ないと思い、2015 年 10 月より開始しました。会の中で高校生と大人に新しいつながりが生まれ、高校生が地域で育てられる環境ができつつあります。



高校生が自分たちの活動や想いを話す



市役所職員の方から地域での取り組みや、仕事に向き合う想いを話してもら

in 南三陸

年間実施回数 **11回**

延べ参加人数 **348人**

参加内訳



Arata Sudo

須藤新太

南三陸町民

底上げ Drinks では毎回色々な人との交流を楽しみにしています。年代も高校生から年上の大先輩、地元の知り合いから町外の方までとにかく幅広い! そんな普段なかなか会えないような人と話をしたり、ご飯を食べたりするのが毎回楽しみです。「こういう活動をしている人がいるって知らなかった!」「そういう感じ方もあるんだ!」と毎回新発見や刺激をもらっています。もちろんくだらない会話をしている時間も大好きです。人と人の出会い、交流の場である底上げ Drink にこれからもたくさん参加しますよ!



みんなでごはんを作る



地元の高校生や大人、県外の大学生や社会人も参加

底上げ Drinks in 仙台 始まりました!

2016 年 8 月に沢山の宮城の高校生と知り合った事をきっかけに、仙台でも底上げ Drinks を開催し始めました。仙台市内の高校生、気仙沼、南三陸の OBOG の大学生や、伴走者(高校生の伴走活動)ネットワークの大人たち等幅広い層の方に参加していただきました。2016 年は 4 回開催し、のべ 109 名にご参加を頂きました! おしゃれなコワーキングスペース THE6 を拠点に来年度も継続して開催します。



SOKOAGE CAMP

参加人数 **29人**

1期生



Momoka Souma
相馬百花

名古屋外国語大学 2年

6日間、同じ目線で決して否定せず、全力で支えてくださりありがとうございます。途中、苦しくて逃げたいと思ったり、わけがわからなくなったりもしましたが、どんな時も心を寄せてくださったみなさんの真剣な思いが、最終的に綺麗な涙に繋がったのだと思います。このご縁を大切に、今後も底上げさんの活動に関わりたく強く感じています。

0期

Aug.22-28, 2016



廃校舎で机を並べワークをする参加者



2期生



Haruka Takahashi
高橋啓花

上智大学 4年

参加する前は人を困らせるのも自分が傷つくのも嫌で、心の奥にある感情ほど出ないようにしていたけれど、思い切って伝えることで見えてくることもあり、私の周りにはしっかり受け取って応えてくれる人がいることにも気づけ、自分の感情を素直に伝えることはそんなに悪いことではない、もっと伝えていきたいと思うようになりました。

0期生



Satsuki Oka
岡嶋紀

宇都宮大学 4年
1期・2期インターン

「参加者はなにを求めているのか」ということを意識して行動していましたが、見落としてばかりだったり、うまく言語化、行動化できなかつたりと悔しさばかりでした。しかし、その中でわたし自身も成長したい、もっとよくしたいという行動が参加者のみんなの変化につながったときの喜びは自信にもなりました。



全力で自分と向き合う 1 週間

SOKOAGE CAMP は、大学生向けのプログラムです。全国から大学生が集まり、自分はどのようにありたいのか、どう動いていくのかを考えます。1週間気仙沼で合宿をし、徹底的に自分と向き合い、対話する。新しい価値観にふれあい、視野を広げる。そして合宿を終えたあと日常に戻り、仲間とともに進んでいく。底上げは彼らに寄り添いプログラムを進めていく中でそんな環境を作っていきます。

1期

Feb.12-17, 2017



冬、毛布をみんなで囲いながら対話

2期

Feb, 20-25, 2017



9名が参加。濃密な時間をともに過ごした仲間たち

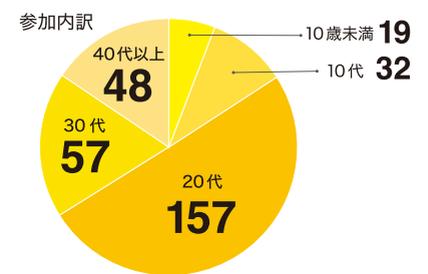
農業部



年間作業日数 **29日**

お米収穫量 **250kg**

延べ参加人数 **312人**



総勢 30 名以上。みんなで田植え

茂木の里山で自然の恵みを感じながら お米づくりと野遊びを楽しむ

底上げ農業部は、「食と農の意識を“底上げ”する」をテーマに、栃木県茂木町にて農作業体験の機会（主に、田植え、草取り、稲刈りの田んぼ作業体験等）を提供しています。参加者は、子ども、家族、学生、社会人まで幅広いメンバーで、参加者自ら企画・運営をしながら、食と農のコミュニティづくりをしています。

底上げ Youth COM OBOG

2012年から始めた高校生サポートプログラム。現在は気仙沼市、南三陸町から合わせて40人の卒業生が出ています。進学・就職で地元を離れたOBOGとも関わりを続けていく中で、地元で行動する機会、地元を考える機会を継続して作っています。今年度は高校生をサポートする側になるインターンやスタッフと共に行く視察研修、企業との共同研修を実施しました。

インターン



2016年8月、2017年2月に3週間ずつ大学生インターンが5名きてくれました。そのうち4名が底上げYouthのOBOG。帰ってきたOBOGは、高校生活動のサポートから他団体・行政との打合せ、地元の方との連絡調整などスタッフと一緒に動き、最後には自分たちで高校生のまちあるきの企画運営をするなど、一つ実践をしました。高校時代とは違う目線で底上げと関わり、学びを得るとともに現役高校生にも良い刺激を与えてくれました。



Ami Miura
三浦亜美
日本大学 4年

インターン中、私自身が高校時代に活動していた「底上げYouth」に、底上げが開いていたフリースペースに参加した高校生が、新たな仲間として加わった瞬間に立ち合うことができました。継続的な活動が新しい高校生の輝ける場に繋がっていることを実感でき、とても印象的な出来事でした。また、インターンの最中に、まち歩きを通して気仙沼の魅力を再発見するイベントを開催しました。気仙沼のモノ・コト・ヒトから学びを得ただけでなく、自らも挑戦しようという行動でき、とても有意義な日々を過ごすことができました！

沖永良部島研修



気仙沼OG1名、南三陸OBOG2名とともに、沖永良部島で取り組まれている持続可能なライフスタイルの研究と実践を学びに行きました。行政民間が取り組んでいる島の観光・教育・資源・暮らしなどの事例を見ながら説明して頂き島を周りました。移動や食事の合間でも、スタッフとOBOGで学んだことや持ち帰れることを共有で盛り上がり続けました。



Chisato Hatakeyama
島山千怜
宮城大学 4年

しあわせに生きるヒントを得る、という目標を掲げて行ってきた沖永良部研修。来年から社会人になるにあたって「世の中にとってほんとうにいいもの」を提供するためには、人間が本来あるべきライフスタイルに沿った需要へアプローチするモノ・コトをつくっていくことが大事だと感じました。沖永良部で出会った人々はそれぞれの生活の中でそれを体現していたように感じます。決して住みやすいとはいえない環境でも、自然という制約の中でのしあわせは確かにあると肌で感じた研修でした！

企業との共同研修



エルメス財団様から助成を頂いたことがきっかけとなり、OBOGの研修をして頂きました。まずは本社にお伺いし、ビジネスマナー研修を受講。レクリエーションを入れながら実践することで楽しく学ぶことができました。さらに社員の方々には気仙沼にお越し頂き、OBOGが地元を紹介するツアーを実施しました。チームに分かれOBOGが自分のおすすめ気仙沼スポットを案内。ツアーの内容や感想を発表するところまで社員の方と一緒にを行いプレゼンテーションなどを学び交流を深めました。

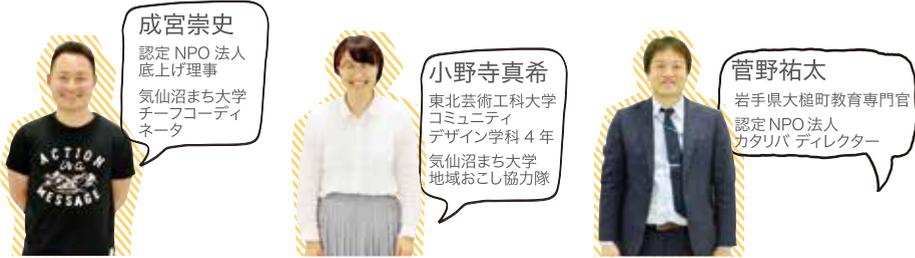


Katsuyoshi Yamada
山田克義
社会人

2016年にメゾンエルメスにお招きいただき、プレゼンテーションスキル講習をしていただきました。今回は第一弾ということで立ち振る舞いや歩き方、発音の仕方など、プレゼンテーションの基本の基となることを教えていただきました。私個人としては接客業に従事していることもあり、この研修で学んだことは、より良いサービスを提供するための力になりました！また、エルメスの方々に気仙沼の町案内をさせていただきました。日頃お世話になっている方々ですし、世界の有名ブランドということもあり、心配と緊張の中での案内でしたが、交流会も含め気仙沼を存分に楽しんでいたただけでなく、その後も交流させていただいており、とても良い機会でした！！

対談：気仙沼とともに歩く道

～底上げ Youth から 3 年、地元に戻って働くこと～



成宮崇史

認定 NPO 法人
底上げ理事
気仙沼まち大学
チーフコーディネーター

小野寺真希

東北芸術工科大学
コミュニティ
デザイン学科 4 年
気仙沼まち大学
地域おこし協力隊

菅野祐太

岩手県大槌町教育専門官
認定 NPO 法人
カタリバ ディレクター



まきちゃん高校時代について

菅野 (以下か) まずは二人の出逢いについて聞きたいです。

成宮 (以下な) まきちゃんに会ったのはまきちゃんが高校に入ってから。2013 年の 4 月からかな。2 月に市民会館で市内の人に底上げ Youth の報告会をやって、高校生たちがこんな思いで活動してますっていうのを話したんです。そのときに、まきちゃんも見に来てくれていて。それで 4 月にまきちゃんが入りますと言ってくれた。

か 3 月 11 日(東日本大震災)があって、まきちゃんは当時中 3、そのあとすぐに高校生になったんだよね。もし最初から底上げみたいな活動を知っていたら最初から参加してた？

小野寺 (以下お) うーん…。高校 1、2 年は部活が楽しかったから多分やってなかったです。

か 何部だったの？

お 軽音楽部です。休みもない部活だったからやってなかったと思います。

か なぜ高 3 になってから急に？

お 高 3 になるちょっと前から自分も何かしたいなという気持ちが芽生え始め、報告会で聞いた時にすごい楽しそうだったから決めました。自分は部活やって学校行ってるだけだし、震災後も避難所の手伝いとか特になにもしてなくて避難していた家でした。特に誰かのために何かしたっていうのがなくて自分はこれでいいのかなという気持ち

もあって。

か へーなるほどね。Youth の活動を簡単に教えて。

お メインの活動は気仙沼の恋人スポットを紹介するリーフレットとそのスポットを周るツアー。他には気仙沼の郷土料理をアレンジしたレシピを考えたり、私はお祭りのうちわ作りをしました。

な お祭りの歴史とか伝統曲の歌詞をうちわに書いたりして。そういうのをもっとみんなに知ってもらいたいって言うてはじめてんだよね。

か ちなみにまきちゃんはチームの中でどういう立ち位置だったの？

な まきちゃんは最上学年で、温かく見守りながら「それいいじゃんやろうよ！」みたいな、肯定的な雰囲気を作って引っ張る感じだったかな。

お へ～。笑

か ちなみに今の話は 7 月とかなんですよ？この頃には進路東北芸術工科大学って決めてたの？

お 決めました。

か なんて芸工大？(コミュニティデザイン学科) 1 期生だよ。まずはいつどうやって芸工大を知ったの？

お 高校 3 年のときかな。最初はコミュニティデザインの本や山崎さんのネットの記事を読んでおもしろいなって思って。それで記事に来年度芸工大にコミュニティデザイン学科をつくるというのを見て入りたい!と思った。

か なぜコミュニティデザインに興味を持ったの？

お 高 2 の後半からなんとなくまちづくりに関する勉強ができる大学を探していた。そのときコミュニティデザイン学科はまだできていなかったけど、studio-L でやっていることがすごいなと感じて。それは studio-L の人たちが何かアイデアを持って行って活性化するのはなくその町の人たちの思いを引き出してそれをサポートする役割なのと、参加している町の人たちがすごい楽しそうに活動しているのがすごいなと思ったんです。

それでコミュニティデザインがいいなと。

か 今の話を聴くと、都市計画にはあまり興味を持たなかったような気がして。コミュニティをデザインする、思いやりやりたいことをサポートできるものに興味を持ったということがなんでか、そのルーツを知りたい。

お 最初はまちづくりとか全然興味なくて。でも Youth の活動を通してこんなに楽しく活動できるんだとか、町の課題解決のためだけでなく自分たちのやりたいことをかけあわせて町のためにできることが楽しかったです。

か Youth のことについて、なるさんからみてまきちゃんがほかの子と比べてここが違うなとおもったところありました？

お 『まちづくり』は誰が担うべきだと思う？

か 『まちづくり』は誰が担うべきだと思う？

お そこに住む人。

か なるさんはまちづくりするにあたって、よそ者と感じることはありませんか？

周りが焦っていても乱れないところもある。まきちゃんがチームにいることで安心感があつた。イメージで言うとお木みたいな笑

大学について

か もしもう一回進路を選ぶとしたらコミュニティデザインにはいる？

お 同じ背景だとしたら入ります。

か たとえば高 3 ずっと軽音楽部やってたら違うことになってた？

お うん。ちょうどコミュニティデザイン学科に行くかドラマの専門学校に行くかで迷ってたから。

か コミュニティデザイン学科が一番学んだことは？

お ファシリテーションとかワークショップとかデザインも学んだんだけど、一番は人との接し方だなと思ってます。自分たちはそこに住んでいる人じゃない立場で地域に入って、何年かしたらそこからいなくなる人だけど、地域の人にとっては人生の中の貴重な時間とそれに関わるのだから、自分たちも本気で関わっていかないと失礼だなと。そう接し方を学べたのはコミュニティデザイン学科入ってよかったなってすごいと思う部分です。

か 『まちづくり』は誰が担うべきだと思う？

お そこに住む人。

か なるさんはまちづくりするにあたって、よそ者と感じることはありませんか？

な そんなに感じたことはないかな。ただ、よそ者だからできるメリットもあるし。僕自身は地元民でもよそ者でもいいと思ってる。それは見る人の評価であるから、僕はその人に合わせて一緒にできることを探さず感じかな。

か まちづくりの主旨はどういう人によってほしい？

な よそ者でも地元の人でも、主体的にできる人がやるのが大切だと思う。

今、気仙沼まち大学 地元に戻ってきて働くこと

か まち大学のチーフコーディネーターって面白いことをなるさんに任せているんだなあ。気仙沼で、学びある新しいものを生み出していこうな場所づくりをなるさんに任せた。これからまちづくりのプロフェッショナルになっていくであろうまきちゃんからみて、これはどういう意味があると思う？

お あまりわからないけれど、震災のあとに気仙沼は移住者がたくさん来て、他の地域から「なんで気仙沼って移住者そんなに残っているの？」と聞かれることがよくある。来てくれた移住者の人たちのおかげでちょっと風通しがよくなっているっていうのもあって、それをここで途絶えさせたらだめというか。まち大学も移住してきた人がメンバーに入ってるのはその状態をこれからも保っておくという意味もあるんじゃないかなって思います。

な よそ者っていうのはあるんだけど、この人たちにもっと安定してほしいとか、まだよそ者の風っていうものがあってほしいとか、あったと思う。その中でチーフっていう役割が来たのは、よそ者だけこの先ずっとこの町にいるだろうっていう安心感が僕に対してはあったのかなと。

か なるほど。じゃあまきちゃんに質問。なんでこの 4 年生っていうタイミングで気仙沼に戻ってきたの？

お 3 年生になって就職を考える時期にはもう気仙沼にすぐ帰りたいと思っていて。2、3 年は違うところで働いてそれから戻ってきて遅くないんじゃないかなって思ってたんですけど、今の環境がほんとうに甘えてない環境といえるかな？

お 甘えてる部分はやっぱりあるかも。なるさんがチーフコーディネーターで周りにはもともと知

りていないか。何ができるかわからないけど、0 から作っていく状態に関われるなっていうのが一番大きくて。気仙沼に帰ってきたいけど、コミュニティデザインを生かした仕事をやりたいっていう気持ちもあって。気仙沼にそういう仕事ないしと思ってた時に気仙沼まち大学の募集が始まって。まち大学だったら自分が今まで学んできたことも活かせるだろうと思って。だからまち大学に入りました。

か なんで採用したんですか？もうちょっと経験のある即戦力の人でも良かったはずなのでは？

な たしかに募集要項にはそう書いてあったんだけど。笑 まきちゃんからも気仙沼に戻ろうかなって話は聞いていて、一生懸命コミュデザで頑張っているっていうのも見ていたし、本当に単純に一緒に働きたいなと思って。新しいチャレンジをしたいけどその仕事はまだ町の中で確立されていないという状況で、まず自分のやりたいことで可能性を広げていくために使ってもらっているのがこの協力隊の狙いであり、まきちゃんの今の状況にピッタリだなと思った。あとは自分の町に可能性を感じて帰ってきてくれる人が増えるのはハッピーな部分です。だから地元出身で U ターンっていうのは大きい要素かな。

か なるさんがまきちゃんのこれから 5 年間の人生設計をするとしたら、気仙沼で働いてほしいのはまきちゃんにとって本当に幸せなのか、それとも他の地域でやった方がいいか、どう思う？

な 勉強という意味では他の地域に行くのはとても大事だと思うけど、他の地域でしか学べないこととあるのかな？とも思う。気仙沼の中にこれだけ多様な人とか可能性があるので、市内で学べるものはたくさんある。なおかつ将来的にこの町でとてれば、自分自身で広げていくのが最善なんじゃないかなとも思ってます。

か まきちゃん、意地悪な質問だと思ってほしいんだけど(笑)、今の環境がほんとうに甘えてない環境といえるかな？

お 甘えてる部分はやっぱりあるかも。なるさんがチーフコーディネーターで周りにはもともと知

っている人ばかりで。会社とか新しい組織に入った時に一番大変なのは組織内でのコミュニケーションだと思うんだけど、私はそこを苦勞せずにすっことは入れたところはある。あと若い U ターンってそれだけで喜ばれるから。これは甘えてるのかな？と考えるときもありますね。

か それは自分の中でどう捉えているの？

お どちらも甘えられるところはあるなと思っていて。全然知らないところに行ったら、知らないからこそ自由に動ける。気仙沼だと出身だしこれからは住みたいから、人からどう見られるか気にしている。そういう意味では地元で働くデメリットはあるなあと思っている。だからどちらかが楽っていうのはないと思ってるので、それだったら自分が面白そうだなって思う方にいけばいいなと思います。

か これは結構重要だと思っていて、この町にはこういうことした方がいいってことを何度も色んなところで経験できるというチャンスを踏むよりも、気仙沼の中で日々変わる学びを得ていくっていう方を選ぶ。まちづくりのプロフェッショナルになりたいというわけじゃなく、気仙沼をタイミングごとに支えていく人になりたいって思いの方が強いのかなと思ったんだけど。

お そうですね。

か 気仙沼の中でこんな価値を發揮してほしいというなるさんからの願いはありますか？

な やっぱり対話の場かな。6 年気仙沼にいて思うのは、議論が賛否両論ぶつかって前に進まないっていうのがたくさんあって、もっとお互いの気持ちを取り合って何か合わせられればいいのにずっと考えてきた。「こうやって対話してって価値がうまれていくんだな」っていうのをみんなが感じるのが町に必要なステップだと思ってる。それを実現できるのは今のまきちゃんの持っているスキルであり、キャラクターだと思っています。

お 自分がまちづくりの主体になるイメージはなく、他の人がやりたい方向にいけるようにサポートすることを自分がやりたいと思っています。自分自身が気仙沼に対してこうなってほしいってのはあんまりなくて他の人たちが思うような素敵な町になったらいいなと思うことなので。

未来について

か じゃあまきちゃんに。10 年後、なるさんが気仙沼にとってこんな存在になってるんだろうなという絵を思い浮かべるとどんな状態か、これなるさんにも同じ質問。どう？

な まきちゃんの 10 年後は、ひとつはワークショップデザイン事務所っていう形かな。もう立ち上げてるもんね？

か へー、名前はなんていうの？

お 荒屋ワークショップデザインです。自分の家の屋号。

な 市内でも仕事依頼がきつつ、それ以外にもまきちゃんが出向いていく。何かご縁があったからそこに行くっていう感じ。でもベースは気仙沼や東北沿岸部、そういう部分を大切にしながらの動き方になって最終的には行政から依頼が来てるんじゃないかな。まちづくりのプロフェッショナルではないかもしれないけれど、まきちゃんは気仙沼づくりのプロフェッショナルにはなってると思う。

か すていねまきちゃん笑 難しい道を歩むね。なるさんは何かすごい専門性とか強みを持っているとかではなく、そのコミュニティの中で信頼関係を作ってここになるさん必要だぞってなんとなく思われながらやってるよね。まきちゃんはそういう道を歩む…のか？笑 なるさんは、44 歳のなるさん。

お なるさんは 10 年後も今と変わらなそう笑 変わらず気仙沼の人が周りにたくさんいて、どこかに行ったら絶対「お、なるさん!」って声かけられてそう。

終わりに

か 最後の質問です。まきちゃんに。わたしにとっての底上げとは？

お 親戚のおじさん？

一同爆笑

か ぜひその思いを笑

お 自分の家族より見てもらっているなって思う。底上げの存在だけじゃなく思えるし、もしなにかつづいても絶対助けてくれるような安心感がある。親戚のおじさんなのかなそれって笑



Yahoo! プロジェクト

2017年3月11日。震災から6年を迎えたその日に、Yahoo!のプロジェクト「検索は応援になる」が行われ、寄付先の6団体の一つとして当団体が選出されました。このことは、私たちにとってただ寄付のサポートというだけでなく、私たちの活動をより多くの方に周知する機会となりました。検索一回につきYahoo! Japan様が10円を寄付するというこの取り組みは、420万人が参加し大きな注目を集めました。



気仙沼まち大学

2016年度より、気仙沼市との協働により、「気仙沼まち大学」構想のメンバーとなりました。「気仙沼まち大学」は、市民一人ひとりが、新しい何かにチャレンジし、お互いに支え合い、たくさんのリーダーが生まれるような文化を気仙沼に根付かせていくことを目的としています。新しい何かを生み出す、そんな人と人が交流できる場所としてコワーキングスペース「□ship(スクエアシップ)」もオープンし、ワクワクしたまちづくりを目指して今後も活動して行きます。

認定

気仙沼初の認証！

2016年7月27日付で宮城県より認定NPO法人として承認を受けました。全国にNPO法人はおおよそ5万団体ありますが、その中で認定を得たNPO法人は900ほどになります(内閣府調べ)宮城県管轄では5団体目、気仙沼では初の認証となったことはとても喜ばしく、ひとえに多くの方に支えられた結果だと思っております。これにより、底上げへの寄付は寄付金控除の対象となります。より多くの方と東北を盛り上げていきたいと思っています次第です。※寄付金控除についてはp23参照



ついに底上げに女性スタッフ加入！

2016年より底上げのスタッフとして着任しました江川沙織です。宮城県仙台市出身で、震災後に神奈川県からリターンし、財団にて震災復興の助成金事業に携わっていました。底上げとはその時に助成先団体と担当者という関係で知り合い、矢部、成宮と同年という事でちょっとした親近感を持っていました。フリーランスとして働こうかなと思っていた矢先に、「気仙沼に遊びに来なよ！」と声をかけられ、「一緒に何か出来ると思うけど何がしたい？」と聞かれ、気が付けばスタッフになっておりました。今後とも前に進む団体である様に、邁進しながら底上げの一員として参画して行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します！

新理事・監事が就任しました



スミス光永奏者
Common Earth 株式会社
代表取締役

新理事に就任させていただきましたスミス光永奏者です。一致団結した底上げスタッフ・理事の皆さんと共に、この素晴らしい枠にとられなく真摯に学生のサポートに尽くす団体へ、自分なりの貢献ができれば幸いです！

山崎賢治

NPO法人ハーベスト 代表理事

監事を務めている山崎です。よそ者・若者・※※者の三拍子がそろった底上げのみんなは生粋のイノベーター！きっと彼らなら、気仙沼から宮城・東北を底上げしてくれるに違いないと思ひ応援していきます！！



1年こんなこともありました SOKOAGE Timeline



南三陸町事務所オープン

7月より、南三陸町に事務所を構えることになりました。目の前には海があり、とても静かな場所です。ぜひ一度遊びにいらしてください。



気仙沼高校キャリアセミナー

NPO法人ハーベストと共催で、気仙沼高校でキャリアセミナーを実施しました。市内20名以上の方々が生徒さん達と密に語り合い、とても充実した時間になりました！



南三陸町報告会

11月11日に南三陸町で地元の方向けの活動報告会を行いました。全部で40名近くの方に参加していただきました。高校生のパネルディスカッションでは、高校生自ら、自分の成長を語ってもらいました。



ホームページリニューアル

底上げのホームページを改良しようと株式会社イトナブにウェブ制作を依頼。その打合せ初日にまさかのハッキング。この機を逃さず、ホームページの一新が決定。また新しい底上げの窓口が作られました。ありがとうございました。

2016 April.

07

08

10

11

2017 January

03



Sokoage Kitchen

底上げとつながった人たちが緩やかに集える場を関東でも作っています。2016年度は4回実施しました。多様な人がご飯を食べながらつながりを持つことで、日常に小さな変化が起き、そこから新しいことが生まれていく。そんな機会になればいいなと思っています。



アメリカへ

2011年より Softbank 株式会社様が、福島・宮城・岩手の高校生100名を対象に、アメリカのカルフォルニア大学バークレー校で、地域課題解決を学ぶ、「TOMODACHI サマー ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」を実施しています。2016年は齊藤・江川が現地に行き、高校生のサポートを行いました。



TOMODACHI 世代 グローバル・リーダーシップ・アカデミー

米日カウンシル—ジャパンとTOMODACHI イニシアチブが主催するプログラムの企画運営を底上げも協力して行いました。東北3県の高校・大学生を対象に、「ローカルな変革にグローバルな視点を」をテーマとして、プログラムを執り行いました。



東京報告会

2017年3月26日、日本マイクロソフト株式会社様の会議室をお借りして「認定NPO法人底上げ2016年度活動報告会」を開催いたしました。年度末にもかかわらず、本当に他方から100名近くの方にお越しいただきました。

収支報告

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

平成 28 年度 活動計算書

(単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
賛助会員受取会費	36,000	36,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	11,601,728	11,601,728
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	15,282,404	15,282,404
4. 事業収益		0
5. その他収益		
受取利息	1,168	
雑収入(注)	6,996,312	6,997,480
経常収益計		33,917,612
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬	5,280,000	
給料手当	8,300,000	
人件費計	13,580,000	
(2) その他経費		
法定福利費	1,603,010	
福利厚生費	40,000	
外注費	720,000	
会議費	387,051	
旅費交通費	1,989,266	
通信費	407,249	
消耗品費	403,590	
修繕費	274,303	
水道光熱費	354,913	
新聞図書費	42,548	
支払手数料	19,158	
車両費	504,574	
地代家賃	1,714,577	
保険料	231,383	
租税公課	50,361	
印刷製本費	541,778	
謝金	426,657	
研修費	15,000	
その他経費計	9,725,418	
事業費計		23,305,418

(単位：円)

2. 管理費			
(1) 人件費			
人件費計		0	
(2) その他経費			
法定福利費	6,566		
福利厚生費	10,000		
外注費	180,000		
荷造運賃	0		
会議費	1,842		
旅費交通費	36,145		
通信費	18,523		
消耗品費	29,310		
修繕費	65,729		
水道光熱費	86,334		
新聞図書費	3,960		
支払手数料	4,396		
車両費	1,712		
地代家賃	122,419		
賃借料	0		
保険料	57,845		
租税公課	12,589		
印刷製本費	17,942		
謝金	48,880		
研修費	0		
その他経費計	704,192		
管理費計		704,192	
経常費用計			24,009,610
当期経常増減額			9,908,002
III 経常外収益			0
経常外収益計			0
IV 経常外費用			0
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			9,908,002
法人税、住民税及び事業税			177
当期正味財産増減額			9,907,825
前期繰越正味財産額			6,355,397
次期繰越正味財産額			16,263,222

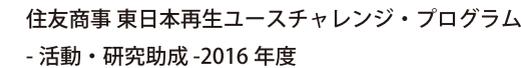
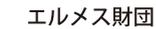
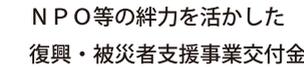
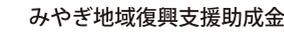
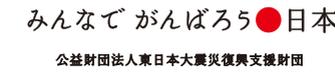
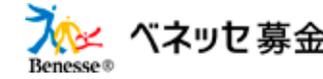
(注)雑収入 6,996,312円のうち1,566,000円はCAMP参加費収入、199,784円は謝金収入
※ 今年度はその他の事業を実施していません。

計算書類の注記

(単位：円)

科目	仮設住宅に住む被災者に対する支援事業	被災者の自立支援事業	ボランティアの需要と供給の創出事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益						
1. 受取会費	7,200	18,000	3,600	28,800	7,200	36,000
2. 受取寄附金	2,320,346	5,800,864	1,160,173	9,281,383	2,320,345	11,601,728
3. 受取助成金等	3,056,481	7,641,202	1,528,240	12,225,923	3,056,481	15,282,404
4. 事業収益	0	0	0	0	0	0
5. その他収益						
受取利息	0	0	0	0	1,168	1,168
雑収入	0	0	0	0	6,996,312	6,996,312
経常収益計	5,384,027	13,460,066	2,692,013	21,536,106	12,381,506	33,917,612
II 経常費用						
(1) 人件費						
役員報酬	0	5,280,000	0	5,280,000	0	5,280,000
給料手当	0	8,300,000	0	8,300,000	0	8,300,000
人件費計	0	13,580,000	0	13,580,000	0	13,580,000
(2) その他経費						
法定福利費	6,567	1,593,160	3,283	1,603,010	6,566	1,609,576
福利厚生費	10,000	25,000	5,000	40,000	10,000	50,000
外注費	180,000	450,000	90,000	720,000	180,000	900,000
会議費	13,815	372,314	922	387,051	1,842	388,893
旅費交通費	412,088	1,559,106	18,072	1,989,266	36,145	2,025,411
通信費	86,373	311,614	9,262	407,249	18,523	425,772
消耗品費	53,609	335,326	14,655	403,590	29,310	432,900
修繕費	69,673	171,766	32,864	274,303	65,729	340,032
水道光熱費	86,334	225,412	43,167	354,913	86,334	441,247
新聞図書費	30,668	9,900	1,980	42,548	3,960	46,508
支払手数料	4,396	12,564	2,198	19,158	4,396	23,554
車両費	129,185	374,532	857	504,574	1,712	506,286
地代家賃	242,421	1,410,946	61,210	1,714,577	122,419	1,836,996
保険料	57,846	144,614	28,923	231,383	57,845	289,228
租税公課	12,590	31,476	6,295	50,361	12,589	62,950
印刷製本費	18,123	514,684	8,971	541,778	17,942	559,720
謝金	98,880	303,337	24,440	426,657	48,880	475,537
研修費	0	15,000	0	15,000	0	15,000
その他経費計	1,512,568	7,860,751	352,099	9,725,418	704,192	10,429,610
経常費用計	1,512,568	21,440,751	352,099	23,305,418	704,192	24,009,610
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	177	177
当期経常増減額	3,871,459	-7,980,685	2,339,914	-1,769,312	11,677,137	9,907,825

助成・寄付団体



その他多数のご支援・ご寄付を有難うございます。

メディア

日付	メディア名	見出し/番組名/出演者
毎月第1金曜日	けせんぬま災害FM	底上げナイト
2016.4月号	まちづくり通信	底上げ Youth 報告会
2016.4.11	NHK ラジオ	「アフター311 すっぴん」/ 成宮崇史、小野寺真希
2016.6.18	リアスの風	地域貢献青少年育成部門賞受賞 / 底上げ
2016.6.19	気仙沼市まちづくり通信	底上げ Youth / NPO 大交流会登壇
2016.7月号	気仙沼まちっう	NPO まちづくり交流会 / 底上げ Youth 小松大河
2016.8.15	子ども白書	子どもの自主性、主体性が育つこと / 成宮崇史
2016.8.26	三陸新報	プロジェクト 1.90 / 成宮崇史
2016.11.4	三陸新報	ESD/RCE 円卓会議 / 底上げ成宮
2016.11.7	河北新報	高校生交流会 / 底上げ
2017.1.17	三陸新報	高校生本気のプレゼン大会
2017.2.28	NHK 総合	あの日わたしは / 底上げ矢部
2017.2.19	NHK 復興サポート	高校生本気のプレゼン大会
2017.3.1	みやぎ県政だより	復興へ / 底上げ成宮
2017.3.11	NHK ラジオ	被災地からの声 / 成宮崇史
2017.3.11	Yahoo!	復興支援募金 / 底上げ
2017.3.24	三陸新報	大学生交流会 / 底上げインターン



認定 NPO 法人底上げについて

所在地

〒 988-0023 宮城県気仙沼市南が丘 2-2-12

TEL 0226-25-9670 FAX 0226-25-9670

Email info@sokoage.org

http://www.sokoage.org/

facebook でプログラム情報を配信中！



認定 NPO 法人
底上げ



底上げ Youth



COM



SOKOAGE
CAMP



底上げ農業部

運営体制

理事長	矢部寛明	理事	野間口侑基
副理事長	齋藤祐輔		齋藤裕輔
理事兼事務局長	成宮崇史		中野健二郎
南三陸スタッフ	野田篤秀		天貝祐樹
スタッフ	江川沙織		金指了
インターン	三浦亜美		喜内尚彦
	畠山千怜		スミス光永奏者
	小野寺彬	監事	山崎賢治
	内海敬人	顧問税理士	滝澤正樹
	伊東ゆきの		
	岡颯紀		

Special Thanks 底上げにかかわる全てのみなさま

Designed by Nao Kato

ご寄付について

皆様からご支援頂いた寄付金は、復興支援事業、地域の若者育成事業、交流事業に使わせていただきます。

認定 NPO 法人底上げの活動にご賛同頂ける方からの温かいご支援をお待ちしております。

ゆうちょ銀行

口座種別：振替口座

口座名：特定非営利活動法人底上げ

記号番号：02290-9-120905

寄付金控除には領収書が必要になりますので、振込にてご寄付頂く場合は、通信欄へのお名前、ご住所、お電話番号の記入をお願いいたします。

クレジットカード

信頼資本財団 底上げ

クレジットカードでのご寄付、マンスリー寄付や、コンビニ、ペイジー等に対応しております。

ご寄付は公益財団法人信頼資本財団を通じて底上げに届きます。

※クレジットカードでの寄付も寄付金控除の対象となります。

会員制度について

ご支援はフォームを入力頂きました方へ送信するメールに記載された銀行口座宛にお振込みをお願いいたします。

- ご寄付 1口 1,000円 (何口でも)
- 賛助会員年会費 個人 12,000円/年
団体 50,000円/年

※賛助会員にお申込みの方は申込フォームに入力頂いた内容を会員申込情報としてお預かりいたします。

※納入されたご寄付、年会費の返却は致しかねます。

※賛助会員資格は9月30日までとなり、10月1日更新となります。



寄付金控除について

特定非営利活動法人底上げは平成28年7月27日付けで、宮城県より「認定特定非営利活動法人(認定NPO)」として認定されました。これにより、平成28年7月27日以降に寄付いただいた金額は、税制優遇の対象となります。

ご寄付いただきましたみなさまには当法人より、お名前、ご住所等必要事項を記した領収証を発行しております。確定申告時に申告していただくことで、税額控除ないしは所得控除を受ける事が可能になります。

詳しくは最寄りの税務署にご相談いただけますよう、お願い致します。

